
走るおじさん

関村俊介

登場人物

高杉 走るおじさん

直美 走るおじさんの妹

靖男 走るおじさんの弟

佐智子 走るおじさんの娘

川島 見てる人A

水沢 見てる人B

神野 見てる人C

立見 走るおじさんの友達

公園。ベンチがある。ベンチには荷物が置いてある。

その近くで、ナオミとヤスオが立ち話。

直美 最近、凄いことに気付いて。

靖男 うん、何？

直美 4ケタの素数のうちある条件をみたす素数の集合Aに：

靖男 ごめんごめん、その凄いこと、俺、理解できないわ、たぶん。

直美 一応、聞いてみたら？

靖男 聞かなくても大丈夫。

直美 あ、そう。…でも一応、聞いてみたら？

靖男 本当、大丈夫。興味ないし。

直美 興味ないのかよ！

と、叩く。

靖男 痛い痛い。ないよ。

直美 最初は興味ありそうだったじゃん。

靖男 世間話だと思ったからね。

直美 うん？

靖男 いや、もっと身近な話題だと思ったから、興味を持っただけで。

直美 凄いことに気付いたって言ったじゃん。

靖男 そうなんだけど。そんなに凄いことだとは思わなかったから。

直美 私のこと、嘘つきだと思ってるわけ？

靖男 そういうわけではないんだけど。

直美 ならいいんだけど。気を付けて、そういうの、傷つくから。

靖男 はい。

直美 で、どうする？

靖男 なにが？

直美 一応、聞いてみる？

靖男 聞いてみない。

直美 あそう。

靖男 俺は数学者じゃないから。

直美 なに？まるで私が数学者みたいな言い方して。

靖男 数学者だよね？

直美 まあ、そうなんだけど。

靖男 じゃあいいじゃん。

直美 それもそうね。

靖男 なんなんだよ。

ジャージ姿のタカスギが軽く走ってきて、ベンチに座って休憩。

靖男 まだ？

高杉 あ、今から。

靖男 わかった。

と、言って、ジャージを脱ぎ始める。

ヤスオもなんらかの準備を始める。

直美 で、私は何をすればいいわけ？

靖男 え？見てればいいよ。

直美 え？私、ただ見るためにきたの？ここに？

靖男 知らないよ。

直美 わざわざ休日？

靖男 平日よりいいだろ。

直美 ただ見るために？兄ちゃんが走るのを？

靖男 嫌なら帰りなよ。

直美 わざわざ休日？こんな何もない公園に？

靖男 だから。

直美 走るのを見に？わざわざ？

靖男 しつこいよ？

直美 この天才数学者の私が？

靖男 姉ちゃんが天才かどうかは知らないけど。

直美 わざわざここまで？電車に乗って？

靖男 1駅しか乗ってないよね？

直美 駅から2分も歩いて？

靖男 たいした距離じゃないよ？

直美 何の仕事もないのに呼ばれたわけ？

靖男 じゃあわかったよ、タイムでも計ってよ。

直美 えー？…オツケー！

靖男 オツケーなのかよ。

直美 ストップウオッチは？

靖男 あー。はい。

と、荷物の中からストップウオッチを取って渡す。

直美 どうも。あー。座りたい。

靖男 なんなんだよ、次から次へと。

高杉 あ、いいよ、ここ。

タカスギは立つ。ナオミは座る。

靖男 いやいや、今から、あっちでタイム計るんだからさ。

高杉 あ、そっか。

直美 私は、ここから計るよ。座ってたいし。

靖男 ゴールのところで計るもんだから、普通。

直美 ここからでも見えるから。

靖男 いやいや。それじゃあ正確に計れないでしょ。

直美 私、数字には強いから。

靖男 関係ねえよ。

高杉 いいよいいよ、ここからで。

靖男 いいの？

高杉 いいよ。行こう。

靖男 うん。

タカスギとヤスオはグラウンドのほうへ行こうとする。

直美 あ、そうだ。兄ちゃん。

高杉 うん？

直美 私、最近、凄いことに気付いて。

靖男 このタイミングでその話する？

直美 いいでしょ、別に。

高杉 なになに？

靖男 あー、聞かないでいいよ。

高杉 え？

靖男 数学の話だから。

直美 ちょっと！ちがわないわよ！

靖男 だよな？なんで怒ったんだよ。

高杉 あとで聞くよ。

直美 よろしく。あとさ、素朴な疑問なんだけど。

高杉 何？

直美 その恰好、恥ずかしくない？

靖男 おい！今、この世の全てのランナーを敵にまわしたぞ？

高杉 恥ずかしいよ。

靖男 恥ずかしいのかよ。

タカスギとヤスオはグラウンドへ向かった。

ナオミはストップウォッチをいじりはじめる。

ちよつとしてからサチコがグラウンドのほうを見ながら来る。

佐智子 あ、おばさん。

直美 どうも、おばさんです、こんにちは。

と、一度はサチコのほうを見るが、ストップウォッチに夢中。

佐智子 こんにちは。珍しいですね。

直美 え？ああ、見に来るの？

佐智子 うん。お父さんと仲悪いのかと思ってた。

直美 良くはないないけどね。悪くもないけど。

佐智子 何してるんですか？パンダのものまね？

直美 タイム計る係。

佐智子 ここからですか？

直美 うん。

佐智子 見ないでいいんですか？

直美 何を？

佐智子 お父さん。タイム計るのに。

直美 まだ走ってないでしょ？

佐智子 はい。でも。

直美 今、1秒00を出す遊びやってるから。やる？

佐智子 私はいいです。

直美 面白いよ？

佐智子 小学生の時、飽きるまでやりましたから。

直美 やるよね。

佐智子 やりますね。

直美 いつも見に来てるの？

佐智子 暇なときだけ。

直美 そっか。応援してんだ？

佐智子 応援なんかしてないですよ。

直美 してないんだ。まあ、そもそも何を目指してるのか、知らないんだけど。

佐智子 ですよ。私も知らないです。

直美 そうなんだ。

佐智子 今日は暇じゃなかったけど、久しぶりに来たんですよ。

直美 そう。どうして？

佐智子 そろそろぶん殴ってやろうかと思って。

直美 え？…働きもしないであんなことばっかやってんだもんね。

佐智子 はい。

直美 ていうか、どうやって暮らしてんの？

佐智子 バイトして。

直美 あー、兄ちゃん、バイトはしてるんだ。

佐智子 いや、私が。

直美 …ぶん殴ったほうがいいね。

佐智子 ですよね。

直美 大学生だったっけ？

佐智子 はい。

直美 じゃあ学費も？

佐智子 自分でバイトして。

直美 お！

佐智子 どうしました？

直美 出たよ。1秒00。

佐智子 おめでとうございます。

直美 ありがとう。あれ？走り終わってない？

佐智子 あ、本当ですね。

直美 やつべ。ま、いつか。10秒09で。

佐智子 速すぎないですか？日本記録が10秒00ですよ？

直美 いいでしょ。1009は素数だし。

転換。暗転するかも。荷物などを持つてはける。

例によって、タイトルを出したりするかも。

明るくなると、カワシマとミズサワがベンチに座っていて、ジンノがその横に立っている。

川島 あのおじさん、いつも、いるね。

水沢 青と白の人？

川島 そうそう。

水沢 いるね。必ずいるよね。

川島 でも、逆に私たちもさ、毎日いるなあ、と思われてるんだろうね、あのおじさんに。

水沢 そうだね。週に2日くらい来てるもんね。

川島 バンドだと思われてるよね。

水沢 え？

川島 私たち、バンドだと思われてるよね、完全に。3人だし。

水沢 そうだね。

川島 私、ギターだと思われてそう。

水沢 私はベースだな。

川島 あんたはドラムだね。

神野 ボーカルはどうした？脱退したのか？

水沢 初音ミクに決まってんじゃない。

神野 決まってねえよ。ていうか、バンドだとは思われてないよ。

川島 はあ？

神野 なんで軽くキレたのか、わかんないけど、バンドだと思われる理由がないだろ。

川島 だって3人だよ？

神野 根拠が薄すぎる。たとえここが高円寺だったとしても3人組だからってバンドだとは限らないよ？
楽器も持っていないしね。手ぶらのバンドマンなんか見たことないからね。

ミズサワ、立ち上がって手ブラをする。

神野 そういうことじゃねえよ！B級アイドルのイメージビデオか！あと、週に2日くらいしか来てないから、毎日いるなあ、とは絶対に思われてないからね！

川島 すげえ喋るなあ。

水沢 本当はボーカルがやりたいドラムなんだろうね。

神野 ドラムじゃねえから。

川島 子供の頃さ、ああいうおじさんって、謎のおじさんとして、恐れられてたよね。なんかあだ名とかつけてさ、石ぶついたりしたよね。

神野 いきなり話題を戻すなよ。

川島 しなかった？

水沢 したした。

神野 石はぶつけなかったけどな。

川島 えー？ぶつけなかった？で、それで追いかけてこなかった？

神野 ひどい子供だな。

川島 で、捕まっちゃうんだけどさ、最終的にアイスおごってくれるよね。

神野 どんな展開だよ。

川島 え？あるあるだよね？

水沢 うん、私もそういうことあった。

神野 嘘だろ？俺はなかったなあ。

水沢 それは石をぶつけなかったからだよ。

川島 石さえぶつけてれば、アイスおごってもらえたのに。

神野 怒られるだけだろ。

川島 おごってもらえるって絶対。

水沢 そういう決まりになってるんだろうね。

川島 全日本おじさん協会のルールなんだろうね。

神野 そんな協会あるわけねえよ。

川島 あるかもよ？フリーメイソンのなさ。

水沢 ちょっとぶつけてみたら？

試し読みしていただけるのはここまでです。

この続きは商品をご購入の上ご覧下さい。

走るおじさん（おためしサンプル）

2015年3月13日 初版発行

著 者 関村俊介 © 2015年

発行者 石村寛之

発行所 有限会社レトロインク

〒181-0001 東京都三鷹市井の頭4-26-7

電話 0422-49-2903
